

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100162		
法人名	アイコーポレーション株式会社		
事業所名	グループホームあい		
所在地	香川県高松市川部町1300番地1		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町受理日	平成23年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3790100162&SCD=320&PCD=37
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成23年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・生活リハビリを大切にしている ・エコや節約 ・ゆったりとした空間、緑が多く静かな環境 ・採りたての野菜や手作りの保存食 ・地域交流
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>木造風鉄筋平屋建ての建物で、解放感にあふれている。目の前には運動公園があり、季節ごとに花や木々を楽しむことができる。自家菜園にて、数種類の野菜が育てられている。地域との交流も盛んであり、施設長の思いが込められた「愛・誠」の理念のもと、職員は日々、利用者の気持ちに寄り添ったケアの実践に努めている。どのようにすれば、その人らしい生活を過ごすことができるか、職員間で検討しながら、日々、自己研鑽に励んでいる。職員・利用者共に落ち着いた雰囲気の中で、共に過ごしている様子がうかがえる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	グループホームあい(北館)	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は「愛・誠」の理念を、毎朝の申し送りにて唱和確認し、常に愛と誠の精神を心において、利用者と接することができるよう実践につなげている。	事業所の理念である「愛・誠」について、職員全員で話し合いの場を持ち、それぞれの持っているイメージを相互理解することができた。その中で「利用者の気持ちを受け止めよう」という共通目標を持ち、実践につながるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方に気軽に声をかけていただけるような雰囲気づくりから始まり、文化祭・運動会・敬老会・お祭り等の地域の行事に参加して、婦人会の方とも顔なじみになっている。園児の訪問・交流もある。	地域の人とは顔なじみの関係ができており、敬老会や運動会など地域行事に、ごく自然に参加している。普段より、ごく自然に事業所にも来ていただき、日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別養護老人ホーム岡本荘の「和みの会」に参加させてもらっており、その取り組みの中の認知症サポーター養成講座では、講師や劇団員としての役割を務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、婦人会・自治会・民生委員・行政関係者・地域の事業所・利用者・利用者家族・ホーム代表等で構成している。利用者と職員は順番に参加し、日々の取り組みを報告し、意見を交わしている。	2か月に一回実施している。会議には婦人会・自治会・地域の方、高松市介護保険課、地域包括支援センター等、各方面より多数の参加が得られている。現状報告し、話し合いを行っている。	各方面の積極的な意見を、日々のサービス向上につながるような取り組みを期待したい。会議での話し合いを、より実践につなげるためにも、会議録についての工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高松市の介護保険課、地域包括支援センターと常に連絡を取り合い、出向き、ホームの行事に来てもらったりしながら、サービス向上を目指した協力関係が築けてきている。	市や地域包括支援センターとは、日頃から交流を図り、協力関係を築いている。必要時には相談・アドバイスを受けることでサービスの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の了解を得て、やむをえず身体拘束を行う場合でも、常に利用者の精神面での安定、安全を考え、随時拘束廃止に向けてのカンファレンスを職員みんなで行っている。	日中の施錠は行わず、鍵をかけないことの暮らしの大切さを理解し、個別の見守り介護を行っている。やむを得ず身体拘束を行う場合は、カンファレンスで検討し、家族の了解を得るように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員が全職員に報告している。虐待はしないという意志を常に持って、利用者に接するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している利用者もおられ、職員に制度の理解ができるよう学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い、理解してもらったうえで、不安や疑問があれば速やかに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、何か気になることがないかなど意見交換を行うようにしている。利用者に意見を聞いたり、要望・不満等を会話・行動等から察したり感じ取ったりしている。またそれらを引き出せるような信頼関係を築けるよう努力している。	意見箱を設置したり、家族面会時には普段より意見や要望等が話ができる雰囲気づくりに努めている。より家族や利用者本人の意見を反映するため、アンケート調査を含め職員間で模索中である。	アンケート調査を実施するなど、家族や利用者の意見や要望をくみ取り、事業所の運営に反映できるような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者・職員全員参加で行う月に一回の定例会にて、意見交換等を行い、皆で話し合う機会をつくるようにしている。	定期的に職員の意見や要望について、管理者を交えた話し合いの機会を設けている。また、必要に応じて、職員間で意見を出し合っている。管理者は職員の意見を運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年制の延長等、就業規則の改善を行った。経営者が、毎日1~2回、早朝から深夜までの間に来居して、職員の意見や利用者の状況を把握している。職員に対しては知的向上を、利用者に対しては心配事を聞きだしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修については、職員が受けたいものに参加できたり、一人ひとりに応じた研修に随時参加してもらい、学ぶ機会を設けている。法人内の研修については、テーマを決めて取り組むようにしている。(講師を招いて実施することもある)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や介護サービス事業者協議会、相互評価等をきっかけに、他グループホームとの交流が続いており、訪問し学んだりすることで、サービスの質を向上させる取り組みができています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者のことを第一に考えて接することを心がけ、傾聴し共感的な理解を示しつつ、利用者との信頼関係が築けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや考えを傾聴し、共感的な理解を示し、安心して話せる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最も必要とするサービスが受けられるように十分に家族の意見を聞き、その時の必要に応じて臨機応変な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食は、職員も利用者と一緒に同じもの食べる等、家庭的な雰囲気ですぐ接する場がある。利用者の昔の話を聞き、生活の知恵を学んだりと親しみを持てる良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態の変化に応じて、家族に連絡をとり意見交換を行う。また、遠くに住む家族に対しては、必要に応じて状況報告をし、常に安心感を持ってもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人等に少しでも来居していただけるように、職員は笑顔で親しみを持って接するよう努めている。また、地域行事への参加により、婦人会の方と顔なじみになっている利用者もおられる。	開放的な造りであることもあり、家族や知人等が気軽に立ち寄りやすい雰囲気である。地域行事への参加や近隣への外出を支援することで、馴染みの関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内でのなじみの関係を築けるように、利用者の性格・趣味・生活歴等を十分に把握し、職員が利用者間の架け橋となり、お互いに協力や思いやりがもてるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となり退居になった方でも様子を伺いに行ったり、家族からの相談を受けたりと関係性を大切にするように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのように過したいのか本人に聞いたり、言動から察したりして、可能な限りそれに近づけるように努めている。また、意見の表出が難しい利用者の場合は、アセスメントしながら本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの望む暮らしを、日々の関わりの中から察することができるよう努めている。気づきは職員間で共有し検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的にあセスメントを行い、これまでの暮らしやサービスについての再確認をすることに加え、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中夜間を通して、一人ひとりの過ごし方や心身の状態の変化等の記録をし、常に職員が情報を共有し、対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りや数人の職員間でのミーティングなどからも意見やアイデアがでることがあり、介護計画につなげるようにしている。また、実行の成果についても共通理解できるようにしている。	担当者を中心に他の職員とも話し合い、個別に計画立案している。個々の介護計画を確認しながら、実行・モニタリングできるように記録等の工夫がなされている。	カンファレンス等への家族の参加が乏しいことから、今後、家族が参加しやすい開催方法等についての検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子が分かるよう、利用者の言葉を、そのまま残すことを心がけ記入している。申し送り・ケアカンファレンス等で報告し、ケアについて話し合い、介護計画の見直しに役立てている。使いやすく皆が分かる記録を目指し、必要に応じて様式を変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食・買い物・地域の行事に参加させていただいたり、個別にその人のニーズに対して対応できるように取り組んでいる。病院受診等も職員が付き添い不安のないよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多彩なボランティアの訪問を受け、外部との交流を図り、利用者に楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望をふまえ、入居前のかかりつけ医をそのまま継続することもあるが、ホームの協力医療機関に変更する場合、十分に説明し納得してもらったうえで、その人にあった医療を受けられるように努めている。(2週間に1回の往診)	利用者が希望する主治医との関係を大切にしており、良い関係が築けている。通院介助は基本的に家族同行であるが、利用者に合わせて柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの心身の状態を日々のケア・申し送り等にて常に把握し、看護師に報告・連絡・相談し、必要に応じて受診する等、迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書を提出して、職員が定期的に訪問し様子を伺い、医師・看護師から病状等についての情報や今後の対応について話し合う機会をつくり、早期の退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限りはホームで生活していただくが、治療が必要になった場合は、連携をしている病院で、主治医・家族との相談のうえ、入院できるよう備えている。	利用者の状態変化に応じて、主治医・家族との相談のうえ、柔軟に対応している。事業所内で重度化や終末期にどのように支えていけるか、できる範囲のことを事前に確認することが必要であると、再度職員間で対応についての検討していきたいと考えている。	重度化や終末期のあり方について、事業所ができることを本人・家族に十分に説明しながら方針を共有できるように、今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に応急手当・初期対応・病気について等の勉強会を、定例会やミーティング等で定期的に行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の際、消防署の方に来ていただき、災害時の対応について、職員全員に分かるように説明を受ける。防火管理者の講習を受けた職員が中心となって災害対策に取り組んでいる。	消防署の協力を得ながら、年2回避難訓練を実施している。夜間想定での避難訓練も実施している。周辺に水路があることから、火災以外の災害についても対策を検討している。	災害対策は火災のみに限らず、水害・地震・湯水対策等についてもマニュアル作成や対策の準備が望まれる。地域住民との協力体制のさらなる充実を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	掃除の際、声かけをし了解を得て、掃除を行うようにするなどプライバシーを守っている。	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した声かけや対応を心がけている。居室は利用者の『家である』という意識が薄れがちになることを懸念して、常に意識できるよう努めている。	日頃から馴れ合いにならず、居室の出入りの際には必ずノックをするように、職員全員が意識が持てることを目標としており、今後の取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別の会話などから気持ちを汲み取ったりして、なるべく自己決定できるような声かけの仕方を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等も声かけはするが強要はせず、一人で過したい方はそっと見守るようにしている。職員は、なるべく利用者との会話の場を持ち、話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望で、いきつけの美容室に行けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	農園の採り入れ、野菜のそうじや皮むき等の下ごしらえを、生活リハビリとして利用者と共にしている。食事は職員も一緒に同じものを食べ、その際に意見や要望も聞くようにしている。食器を重ねたり、お膳拭きしたり等手伝ってもらっている。	自家菜園での野菜の収穫、野菜のそうじや下ごしらえから調理、配膳、下膳、後片づけまで、利用者は能力にあった手伝いをしている。職員も一緒に食事をとり、落ち着いた雰囲気ですべての食事を楽しむことができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・おやつ以外にも間食が欲しい利用者には、職員が買い物代行してお菓子を適量ずつ手渡している。お茶は、要求に応じて本人用のペットボトルを配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	皆がすすんで口腔ケアに取り組めるような雰囲気づくりと、一人ひとり声かけを行い、必要に応じて介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間のみポータブルトイレを使用することで、失敗が減らせている利用者が数名いる。オムツの利用者も排泄パターンに合わせて交換の時間や回数を変えたり、あて方を工夫して対応している。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導することで、自立に向けた支援を行っている。夜間についても職員の都合で安易なおむつ使用をするのではなく、本人にとっていい方法を試行錯誤しながら取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のお茶は、どくだみ・しそ・ゴーヤ等をブレンドして作ったお茶を飲用しており、食事は野菜が多く便秘解消に適している。レクリエーションで体操・ボール遊び・散歩等の運動をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回決まった曜日に入浴している。利用者から不満が出ないように、入浴する順番を決めて、きちんと説明し、ローテーションしていくようにしている。	週3回入浴日は決まっているが、利用者一人ひとりの心身の状態に応じた柔軟な支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷暖房をすぐに使用するのではなく、自然の風をなるべく取り入れて快適に過ごしている。個人に応じて、いつでも休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の一覧表を、まとめて冷蔵庫につるしてあり、職員がいつでもすぐに確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の下ごしらえ・食器洗い・洗濯干し、たみまを役割として、してくれており支援している。日記をつけたり、毎月のカレンダーの色塗りを楽しみにしている利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者からの希望や天気の良い日などに公園に散歩に出かけ、利用者が思い思いに過せるよう支援している。地域の方とも、挨拶したり対話することで良い人間関係が構築できている。	天候や季節に応じて、散歩や買い物等に行くなど、利用者の希望に沿った支援をしている。利用者の希望を聞きながら外食やドライブ、地域の行事等に出かけられる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所でお預かりするようにしているが、所持していないと不穏になる利用者には持ってもらっている。所持金の確認は随時行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話で直接会話をしてもらえるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った置物等を置いたり、花を飾ったり植えたりして季節を感じてもらっている。職員も利用者と同じトイレを使用し、常に汚染などがいないか点検し清潔に保っている。	建物の中から中庭や公園の花や木々の彩りを、楽しむことができる。共有空間には、季節に合った花や手芸作品等が飾られている。ソファや畳が配置され、個々に居場所を確保できる工夫がされており、利用者がくつろげる家庭的な空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけでなく廊下にもソファを置いており、談話したり自室以外で独りで過せる場所を設けている。玄関先にもベンチを置いて、いつでも外気浴できる環境をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の日頃使い慣れた家具・生活用品・趣味の小物を持ち込んでもらえるように家族の協力を得ながら、利用者が居心地よく過せるように工夫している。	利用者の日頃使い慣れた家具や生活用品や馴染みのなる写真や装飾品等を、本人や家族と相談しながら持ち込んでもらって、その人らしい生活ができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には手作りの名札を貼り、トイレには扉に大きく「トイレ」と書き工夫している。廊下は広々として開放感があり、両脇に手すりがあり安全かつ自立してトイレや洗面所まで行くことができる。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は「愛・誠」の理念を、毎朝の申し送りにて唱和確認し、常に愛と誠の精神を心において、利用者と接することができるよう実践につなげている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方に気軽に声をかけていただけるような雰囲気づくりから始まり、文化祭・運動会・敬老会・お祭り等の地域の行事に参加して、婦人会の方とも顔なじみになっている。園児の訪問・交流もある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別養護老人ホーム岡本荘の「和みの会」に参加させてもらっており、その取り組みの中の認知症サポーター養成講座では、講師や劇団員としての役割を務めている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、婦人会・自治会・民生委員・行政関係者・地域の事業所・利用者・利用者家族・ホーム代表等で構成している。利用者と職員は順番に参加し、日々の取り組みを報告し、意見を交わしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高松市の介護保険課、地域包括支援センターと常に連絡を取り合い、出向き、ホームの行事に来てもらったりしながら、サービス向上を目指した協力関係が築けてきている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の了解を得て、やむをえず身体拘束を行う場合でも、常に利用者の精神面での安定、安全を考え、随時拘束廃止に向けてのカンファレンスを職員みんなで行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員が全職員に報告している。虐待はしないという意志を常に持って、利用者に接するように努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している利用者もおられ、職員に制度の理解ができるよう学ぶ機会を持っている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行い、理解してもらったうえで、不安や疑問があれば速やかに対応している。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には、何か気になることがないかなど意見交換を行うようにしている。利用者に意見を聞いたり、要望・不満等を会話・行動等から察したり感じ取ったりしている。またそれらを引き出せるような信頼関係を築けるよう努力している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者・職員全員参加で行う月に一回の定例会にて、意見交換等を行い、皆で話し合う機会をつくるようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年制の延長等、就業規則の改善を行った。経営者が、毎日1～2回、早朝から深夜までの間に来居して、職員の意見や利用者の状況を把握している。職員に対しては知的向上を、利用者に対しては心配事を聞きだしている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修については、職員が受けたいものに参加できたり、一人ひとりに応じた研修に随時参加してもらい、学ぶ機会を設けている。法人内の研修については、テーマを決めて取り組むようにしている。(講師を招いて実施することもある)
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や介護サービス事業者協議会、相互評価等をきっかけに、他グループホームとの交流が続いており、訪問し学んだりすることで、サービスの質を向上させる取り組みができています。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者のことを第一に考えて接することを心がけ、傾聴し共感的な理解を示しつつ、利用者との信頼関係が築けるような関係づくりに努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや考えを傾聴し、共感的な理解を示し、安心して話せる関係づくりに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最も必要とするサービスが受けられるように十分に家族の意見を聞き、その時の必要に応じて臨機応変な対応に努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食は、職員も利用者と一緒に同じものを食べる等、家庭的な雰囲気です接する場がある。利用者の昔の話を聞き、生活の知恵を学んだりと親しみを持てる良い関係が築けている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態の変化に応じて、家族に連絡をとり意見交換を行う。また、遠くに住む家族に対しては、必要に応じて状況報告をし、常に安心感を持ってもらえるようにしている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人等に少しでも来居していただけるように、職員は笑顔で親しみを持って接するよう努めている。また、地域行事への参加により、婦人会の方と顔なじみになっている利用者もおられる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内でのなじみの関係を築けるように、利用者の性格・趣味・生活歴等を十分に把握し、職員が利用者間の架け橋となり、お互いに協力や思いやりがもてるように努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となり退居になった方でも様子を伺いに行ったり、家族からの相談を受けたりと関係を大切にするように努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのように過したいのか本人に聞いたり、言動から察したりして、可能な限りそれに近づけるように努めている。また、意見の表出が難しい利用者の場合は、アセスメントしながら本人本位に検討している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的にあセスメントを行い、これまでの暮らしやサービスについての再確認をすることに加え、情報収集に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中夜間を通して、一人ひとりの過ごし方や心身の状態の変化等の記録をし、常に職員が情報を共有し、対応できるように努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りや数人の職員間でのミーティングなどからも意見やアイデアがでることがあり、介護計画につなげるようにしている。また、実行の成果についても共通理解できるようにしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子が分かるよう、利用者の言葉を、そのまま残すことを心がけ記入している。申し送り・ケアカンファレンス等で報告し、ケアについて話し合い、介護計画の見直しに役立っている。使いやすく皆が分かる記録を目指し、必要に応じて様式を変更している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食・買い物・地域の行事に参加させていただいたり、個別にその人のニーズに対して対応できるように取り組んでいる。病院受診等も職員が付き添い不安のないよう取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多彩なボランティアの訪問を受け、外部との交流を図り、利用者に楽しんでいただいている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望をふまえ、入居前のかかりつけ医をそのまま継続することもあるが、ホームの協力医療機関に変更する場合、十分に説明し納得してもらったうえで、その人にあった医療を受けられるように努めている。(2週間に1回の往診)
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの心身の状態を日々のケア・申し送り等にて常に把握し、看護師に報告・連絡・相談し、必要に応じて受診する等、迅速に対応している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書を提出して、職員が定期的に訪問し様子を伺い、医師・看護師から病状等についての情報や今後の対応について話し合う機会をつくり、早期の退院に向けて支援している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限りはホームで生活していただくが、治療が必要になった場合は、連携をしている病院で、主治医・家族との相談のうえ、入院できるよう備えている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心に応急手当・初期対応・病気について等の勉強会を、定例会やミーティング等で定期的に行うようにしている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の際、消防署の方に来ていただき、災害時の対応について、職員全員に分かるように説明を受ける。防火管理者の講習を受けた職員が中心となって災害対策に取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	掃除の際、声かけをし了解を得て、掃除を行うようにするなどプライバシーを守っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別の会話などから気持ちを汲み取ったりして、なるべく自己決定できるような声かけの仕方を工夫している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション等も声かけはするが強要はせず、一人で過したい方はそっと見守るようにしている。職員は、なるべく利用者との会話の場を持ち、話しやすい雰囲気づくりに努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の顔を鏡で見てもらったり、化粧やマニキュアができる支援をしている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	農園の採り入れ、野菜のそうじや皮むき等の下ごしらえを、生活リハビリとして利用者と共にしている。食事は職員も一緒に同じものを食べ、その際に意見や要望も聞くようにしている。食器を重ねたり、お膳拭きしたり等手伝ってもらっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が減っている利用者には、主治医に相談し、高栄養飲料をだしてもらい栄養を補給している。お茶は、要求に応じて本人用のペットボトルを配っている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を使用せず歯茎で食事をしている利用者には、うがいをしてもらっている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて、個人の排泄チェック表を用いて記録し、排泄のパターンを把握している。リハビリパンツから布パンツに変更できた利用者が2名いる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のお茶は、どくだみ・しそ・ゴーヤ等をブレンドして作ったお茶を飲用しており、食事は野菜が多く便秘解消に適している。レクリエーションで体操・ボール遊び・散歩等の運動をしてもらっている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回決まった曜日に入浴している。利用者から不満が出ないように、入浴する順番を決めて、きちんと説明し、ローテーションしていくようにしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、夜間不眠の利用者は日光浴等を行い、安眠につなげている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の一覧表を、まとめて冷蔵庫につるしており、職員がいつでもすぐに確認できるようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の下ごしらえ・食器洗い・洗濯たみ・広告でのゴミ箱折り・草抜きを役割として、してくれており支援している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者からの希望や天気の良い日などに公園に散歩に出かけ、利用者が思い思いに過せるよう支援している。地域の方とも、挨拶したり対話することで良い人間関係が構築できている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所でお預かりするようにしているが、所持していないと不穩になる利用者には持ってもらっている。所持金の確認は随時行っている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話で直接会話をしてもらえるように支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った置物等を置いたり、花を飾ったり植えたりして季節を感じてもらっている。職員も利用者と同じトイレを使用し、常に汚染などがいないか点検し清潔に保っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールだけでなく廊下にもソファを置いており、談話したり自室以外で独りで過せる場所を設けている。玄関先にもベンチを置いて、いつでも外気浴できる環境をつくっている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の日頃使い慣れた家具・生活用品・趣味の小物を持ち込んでもらえるように家族の協力を得ながら、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には手作りの名札を貼り、トイレには扉に大きく「トイレ」と書き工夫している。廊下は広々として開放感があり、両脇に手すりがあり安全かつ自立してトイレや洗面所まで行くことができる。